

## 【授業実践1（第2学年）】（平成21年度）

単元名 みじかいことばで書こう（教材「見たこと、かんじたこと」光村2年下）

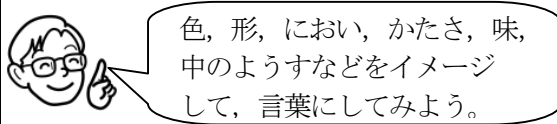
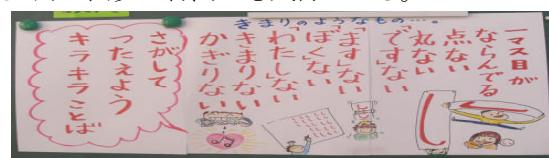
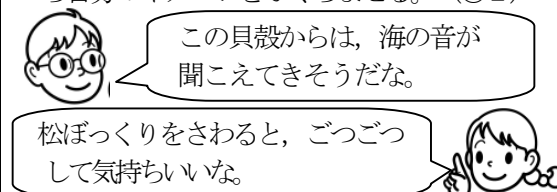

### （1）目標

- 具体物を様々な視点から見たりさわったりして感じたことを短い言葉で表現することができる。

### （2）研究の視点

- 具体物を見たりさわったりした印象を色や形、においなどの様々な視点を意識させながらその特長をとらえたり、比喩表現や繰り返しなどの表現を活用しながら短い言葉に書き表したりといった方法を身に付けさせるとともに、友だちとの交流の場を設けながら互いの作品のおもしろさやよさに気付かせ意欲付けを図る。

### （3）実際

過程	主な学習活動	時間	教師の指導・支援 ☆・・・評価(方法)
つかむ・見通す	1 前時の学習を想起する。(◎1) 2 学習のめあてを確かめる。 見たりさわったりしながら、感じたことを詩にしよう。 3 感じたことの視点を確認する。 	7	○ 前時の一行詩や「観察の仕方」を想起させ、書きたい相手を確認し、感じたことの視点に気付かせる。 ○ 詩の表現の特長にも気付かせる。 
調べる	4 様々な具体物をさわったり、見つめたりしながら自分のイメージをふくらませる。(◎2) 	15	○ 身近にある様々な具体物やカードを準備し、じっくりイメージさせる。 ○ イメージのわからない子には、友だちと対話しながら書くように促す。 ○ マス目カードを活用し、詩の文節表現を意識させる。
深める	5 友だちと交換して互いの作品を音読し、よいところを見つける。 ・ 振り返りカードに記入する。(◎3) 	20	○ 友だちの作品の視点のおもしろさやよさに気付かせる。 ○ 称賛することで今後も書こうという意欲付けを図る。
ふりかえる	6 本時の学習を振り返り、感想を発表し合う。(◎3) ・ 振り返りカードに記入し、詩を書くおもしろさや難しさについて話し合う。 7 次時の学習について話し合う。 ・ 作品の推敲について話し合う。	3	○ 特長をとらえて感じたことを書けたか、比喩や繰り返しの表現を使えたかななどをカードで確かめさせる。 ☆ 題材をよく見つけ特長やイメージに合った言葉を考えながら短い文に書いているか。 ○ 推敲することで作品をよりよいものにできることを確認する。

### （4）成果と課題

#### 《成果》

- ◎1 前時に伝えたい相手を設定したこと、本時で詩にしてみたい具体物を各自持参することを確認したことで、本時は相手意識と目的意識をもって詩を書くことができた。(仮説1)
- ◎2 具体物から言葉を想起させるとき、具体物を見たりさわったりした印象を色や形、においなどの様々な視点を与えたことで、子どもたちが具体物から言葉をじっくりと想起することができた。(仮説3)
- ◎3 「深める」場面で、「振り返りカード」に友だちのよいところを書き、感想を交流し相互に称賛し合ったことで、次時の推敲への意欲付けにつなげることができた。(仮説1)

#### 《課題》

- ▼ うまく書けない子へのさらなる手立てが必要である。(ヒントカードの工夫など) (仮説2)
- ▼ 国語以外で、「書く」活動を楽しんで行えるための手立てを工夫する。(仮説2)

【授業実践2（第5学年）】（平成21年度）

単元名 目的に応じた伝え方を考えよう（教材「ニュース番組作りの現場から／工夫して発信しよう」光村5年下）




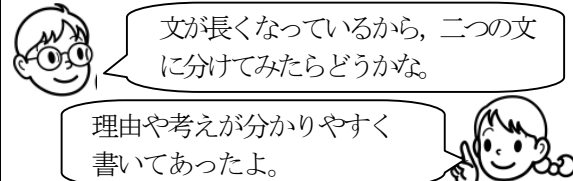
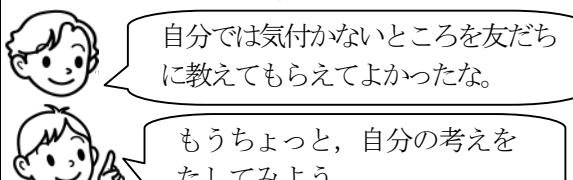
(1) 目標

- 分かりやすい記事にするために、まず各自で考え、次にペアで記事を交換して読み合い、よいところや工夫できそうなところを、アドバイスをもとに伝え合うことができる。
- 図表やグラフなどの資料を効果的に活用して、文章構成、表記、言葉遣いを考えることができる。

(2) 研究の視点

- 自分で考えた構成と、友だちから見直してもらったものを比較することで、変容に気付かせる。
- 記事を編集する中で、聞き手に分かりやすいように、主語や述語や一文が長くないかなどについて考えたり、アドバイスをしたりさせる。
- 記事の編集過程で、だれに、何のために伝えるのかを意識してあたらせる。

(3) 実 際

過程	主な学習活動	時間	教師の指導・支援 ☆…評価(方法)
つかむ・見通す	<p>1 前時までの学習をふり返り、めあてを設定する。 相手に分かりやすい記事にするためにはどのようにすればよいのだろうか。</p> <p>2 学習の進め方の見通しをもつ。 ・モデル文を使い、記事の編集をする。(◎1)</p>  <p>・一文は短く。 ・主語と述語はあまり空けない。 ・結論は先に、理由は後に。 この三つの観点で編集してみよう。</p>	(分)  15	<p>○ 学習に主体的に取り組ませるために、前時までの学習をふり返らせ、学習計画から本時の学習課題を設定させる。</p> <p>○ 学習の進め方について見通しをもたせるために、編集の際の3つの観点を示す。</p> 
調べる	<p>3 自分の記事を読んで編集する。</p>  <p>4 友だちと記事を交換して編集する。</p>	17	<p>○ 自分の考えをまとめることが困難な子どもには導入で示したモデル文の編集の意味をふり返らせる。</p> <p>○ 友だちとの交換をもとに、記事のよさや改善点に気付くとともに、書く必要性を見出させる。 ☆ 分かりやすい構成にするために、観点にそって見ることができたか。</p>
深める	<p>5 友だちとよかった点や工夫してほしいところを伝え合う。(◎2)</p>  <p>文が長くなっているから、二つの文に分けてみたらどうかよ。</p> <p>理由や考えが分かりやすく書いてあったよ。</p>	8	<p>○ 観点にそってアドバイスを書くことの大切さに気付かせる。</p> <p>○ よかった点やもっと工夫した方がよい点を紹介して、表現の工夫がされているところなどを確かめ、次時の原稿づくりの参考にさせる。 ☆ 記事を読み合い、よいところや工夫できそうなところを伝え合うことができたか。</p>
ふりかえる	<p>6 本時のまとめをし、自己評価をする。</p>  <p>自分では気付かないところを友だちに教えてもらえてよかったな。</p> <p>もうちょっと、自分の考えをたしてみよう。</p>	5	<p>○ 伝え合うことよさに気付かせるために、友だちのアドバイスをもとに自分の考えをもったり、修正して分かりやすくなったりしたことを価値付け、称賛する。</p> <p>○ 次時は編集をもとに発表原稿を作成することを確認し、意欲を高めさせる。</p>

(4) 成果と課題

《成果》

- ◎1 モデル文を用いて、編集の観点を示したことで、見通しをもって編集に取り組むことができた。(仮説2)
- ◎2 友だちと交換して記事を編集したことで自分では気付かない修正箇所に気付くことができた。(仮説2)

《課題》

- ▼ 相手意識と目的意識の持たせ方の工夫が必要。(仮説1)
- ▼ 自分の考えをまとめるのが苦手な子ども、考えのまとめ方を分かっている子どもへの手立てを工夫する。(仮説2)
- ▼ 記事の構成と接続語の使い方指導法の工夫をする。(仮説3)

### 【授業実践3 (第3学年)】(平成22年度)

単元名 分かりやすく書こう (教材「おもしろいもの見つけた」 光村3年上)

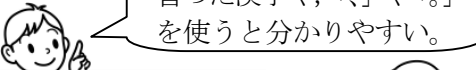
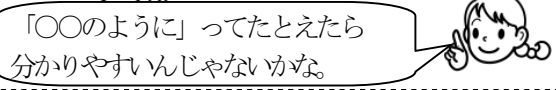
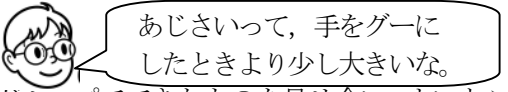
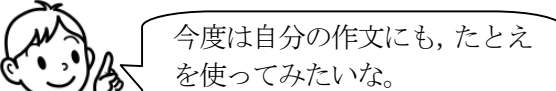
(1) 目標

- 相手に様子が分かるように書くにはどのようにすればよいか、話し合いによって意見を交わし、比喩やたとえを使ったり事実を詳しく書いたりすると、様子が詳しく表せることを理解する。

(2) 研究の視点

- 漢字や句読点がない文章例を示し、様子がよく分かる文章にするための工夫を全体で考えさせる。
- 分かりやすく書く工夫を実際に用いることができるように、文章をより分かりやすく書く活動を行う。そして、それぞれが考えた文章のよいところを見付けさせ、分かりやすい表現方法を理解させる。
- 学習のまとめをし、本時の学習を次時の推敲活動に生かそうとする気持ちを高めるようにする。

(3) 本時の実際

過程	主な学習活動	時間	教師の指導・支援 ☆…評価(方法)
つかむ・見通す	1 前時までに書いた文章を読み、学習のめあてを確かめる。 もっと分かりやすくするためには、どんなくふうができるだろう。 2 学習の進め方を確かめる。 ・ 例文を見て、分かりやすくできる箇所を話し合う。 ・ 分かりやすくする方法を知る。	(分) 7	○ 自分が書いたものを読み返し、今のままでよいか考えさせる。さらに分かりやすくできないかと投げかけ、本時のめあてをつかませる。 ○ 例文をもっと分かりやすい文章にする活動に、意欲をもたせるような声かけをする。 ☆ 相手によく伝わる、分かりやすい文章について考えようとしているか。
調べる	3 例文を見て、もっと分かりやすくする工夫がないか話し合い、分かりやすい文章に書き直していく。(◎1)  	15	○ パワーポイントを利用して、例文はデジタルテレビで示していく。 ○ はじめに示した例文をもっと分かりやすくするためにどんな工夫ができるか意見を出させ、推敲記号の使い方も示しながら、まとめていく。 ☆ 分かりやすくする表現の工夫に気付くことができるか。
深める	4 工夫をまとめる。 〇〇より大きい、〇〇のように(たとえ)、様子はくわしく 5 工夫を生かして、様子がよく分かる文章を書く練習をする。(◎2, 3)  6 グループでできたものを見せ合い、よいところを探す。	20	○ 分かりやすい文章にまとめるためには、どんな工夫があったかまとめ、本時のめあてをふり返るようにする。 ○ 様子が分かる文章を書けるよう、実物を準備する。 ○ 書くことが思いつかない子のためにヒントカードを用意しておく。 ○ 工夫された文章のよさを交流できるように、実物投影機で映し出す。 ☆ 分かりやすく工夫して書くことができるか。
ふりかえる	7 次時は、自分の文章に生かすことを知る。 	3	○ 文章を分かりやすく表現することができたことを称賛し、次時の意欲化を図る。 ☆ 自分の作文に生かしたいという意欲をもつことができるか。

(4) 成果と課題

《成果》

- ◎1 デジタルテレビとパワーポイントを活用して例文を示したことで、分かりやすくする工夫やポイントを視覚的にとらえることができた。(仮説3)
- ◎2 あじさいを見て文章を考えるときには、話し合っただけのポイントをもとにして、様子がよく分かる文章を書くことができた。(仮説2)
- ◎3 様子がよく分かる文章を書く際、生活に密着した実物を使い、見たりふれたりすることで、子どもたちの書く意欲をもたせることができた。(仮説1)

《課題》

- ▼ グループでの交流のときに、友だちのよい表現から互いに学び合えるような手立てを工夫する。(仮説1)
- ▼ 比喩やたとえの表現が苦手な子どもへの手立てを他教科とも関連して工夫する必要がある。(仮説3)

## 【授業実践4（第5学年）】（平成22年度）

単元名 調べたことを整理して書こう（教材「言葉の研究レポート」 光村5年上）

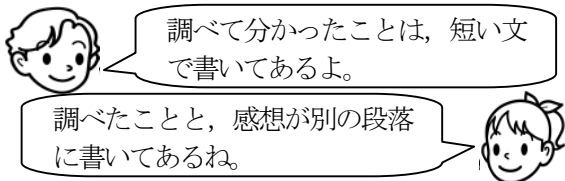

### (1) 目標

- レポート形成での最後の「まとめ」の部分を書く際に必要な事柄や文末表現、構成に気を付けて、伝えたいことを分かりやすく書くことができる。

### (2) 研究の視点

- レポート形式での「まとめ」を書く際のポイントを、モデル文をもとに話し合い、確かめさせる。
- 前時に書いてあった「まとめ」の文章の推敲をさせる。その際に、調べて分かった事実と、それに対して思った感想・意見を区別して書くことができるようにする。
- 推敲後の文章と推敲前の文章を比較させ、感想を発表し、意見を交流させる。

### (3) 本時の実際

過程	主な学習活動	時間	教師の指導・支援 ☆…評価(方法)
つかむ・見通す	1 学習活動にしたがい、本時の学習内容を確認する。 2 めあてを立てる。 調べたことが読者によく伝わるようなまとめの文章にしよう。	(分) 5	○ 未完成の「まとめ」の文章と完成させた「まとめ」の文章を比較させ、違いについて意見を出させる。 ☆ 違いについて気付くことができているか。
調べる	3 モデル文をもとに、「まとめ」を書く時の観点を話し合う。(◎1) 	15	 ○ モデル文をもとに、調べたことが読者によく伝わるための観点について話し合わせる。 ☆ よく伝わる文章について考えようとしているか。 ○ 板書にてポイントをまとめて、視覚的に理解しやすいように配慮する。 ○ モデル文を「事実」「感想」と色分けして明確に分かるようにする。
深める	4 子ども代表の作品をもとに、推敲の仕方を確認する。(◎2) 5 自分の書いた「まとめ」の下書きを推敲する。	15	○ 子ども代表の作品をもとに、推敲の仕方について例示し、推敲をどのようにすればよいか全体でおさえていく。 ○ 活動に戸惑っている子どもへ個別支援をする。 ☆ 観点をおさえて自分の文章を推敲できているか。
ふかまる	6 「まとめ」の書き方のポイントをふり返り、感想を交流する。 7 次時は、レポートを仕上げることを確認する。	10	○ 本時の学習を通して、自分の文章がどのように変わったかを発表させる。

### (4) 成果と課題

#### 《成果》

- ◎1 不足している文から詳しく書けている文へと段階的に子どもたちに示すことで、指摘させることができた。また、「事実」と「感想」を色分けしたことで、分かりやすく識別することができた。(仮説2)
- ◎2 モデル文と子ども代表の作品を提示し、比較させることで、「まとめ」のポイントが明確にできた。(仮説3)

#### 《課題》

- ▼ レポートを書く目的を「学級で1つのおもしろレポートをつくろう」としたが、もっと具体的な目的を設定して、子どもたちの目的意識を高めることが必要だった。(仮説1)
- ▼ 全体ではまとめの観点がよく分かっていたが、個々で推敲を始めたときに、活動がやや停滞した子どももいた。理解した観点を自分の作文につなげるためのさらなる手立てが必要。(仮説3)

